

# 授業における手話通訳者養成の実践報告

手話通訳者養成講座実践レベル準拠「日本語と日本語の違いを学ぶⅢ」

群馬大学 1)教育学部 2)学生支援センター・手話サポーター養成プロジェクト室

能美由希子 1) 下島恭子 2) 川端伸哉 2) 金澤貴之 1)

## 1、はじめに：科目開講の背景

本学では、2017年度より日本財団助成による「学術手話通訳に対応した専門支援者養成事業」を行っている。従来、手話奉仕員養成講座から手話通訳者養成講座の受講修了まで5年以上必要だが、本事業におけるカリキュラムは、その期間を2年半に短縮することを試みている。当該授業は、昨年度1年間で手話通訳者養成講座基礎・実践相当レベルの手話を習得した学生が、今年度前期に受講した科目である。

## 2、「日本語と日本語の違いを学ぶⅢ」概要

生の授業に向いて通訳実習を行う(OJT)

- 1)到達目標：各都道府県必須事業の手話通訳者養成講座上級レベルの内容を習得する。
- 2)形式：演習（手話表現・手話通訳実技を含む）
- 3)履修登録者：16名（全て教育学部在籍。うち15名は障害児教育専攻）
- 4)提出課題：週3回（OJT14回、OJT報告書14回、OJT文字興し7回、OJT再収録4回、読み取り通訳1回、聞き取り通訳4回）
- 5)授業および課題提出の工夫：
  - ・OJTの通訳動画およびOJT報告書を元に、既習事項の再確認および定着化
  - ・授業内の全体フィードバックで、OJTを通じて得られた気づきを共有
  - ・授業内で個別フィードバックの時間を設け、できている点や改善できた点を明示
  - ・学生同士で事例検討の力を養うため、OJT終了時に同行者同士での振り返りを促す



ろう・聴担当教員による説明



課題撮影@プロジェクト室

## 3、授業担当教員および複数の研究員（ろう・聴者）による課題フィードバック

学生から提出された課題は、授業担当教員だけではなく、プロジェクト室勤務のろう・聴研究員もチェックした。学生に対しては、適宜コメントとしてフィードバックすることで、手話通訳技術の改善を図った。

【学生へのコメント例】

- ・個別の癖：手話表出のフレームサイズ・傾きや顔の傾き・音韻とNM表現の繋がり、等
- ・音韻エラー：間違いやすい音韻（手型・位置・動き・手のひらの向き）の指摘
- ・手話と日本語の翻訳（意味の等価）：否定表現の使い分け→/ナイ（存在の否定）/ /ナイ（意思の否定）//チガウ/等の使い分けの再確認
- ・通訳者としての立ち振る舞い：「目の前を横切られてしまった」→通訳環境の再整備・授業担当教員から受講学生への再度アナウンスによる理解促進



通訳 OJT 事前打ち合わせ

## 4、関連講座「手話通訳士試験対策講座」の開講

手話通訳士試験を受験する学生に対して、自学の促しのため手話通訳士検定試験対策試験対策講座（全1回）を開講した。その後、実技試験の対策として、個別課題の設定およびフィードバックを行った。

【概要】

- ・学科試験・実技試験の勉強方法
- ・GoogleDriveを活用した課題提出および個別フィードバック



授業での通訳 OJT



個別指導（実技対策）



開講講座の様子（学科対策）



群馬大学  
GUNMA UNIVERSITY



Supported by  
日本財団  
THE NIPPON  
FOUNDATION



本事業は日本財団の助成を受けて実施しています。